



子宮頸がん（HPV）予防接種説明書



- ① **子宮頸がん**は、子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんで、近年 20～30 代で急増し、日本では年間約 15,000 人の女性が発症していると報告されています。子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がほとんどないため、発見が遅れてしまいます。「発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染が発がんに関与していることが明らかにされています。
- ② 発がん性 HPV は、ごくありふれたウイルスで、女性の約 8 割が一生涯に一度は感染するとの報告もあります。多くの場合、ウイルスは免疫によって自然に排除されますが、うまく排除されずに長期間の感染が続くと子宮頸がんを発症することがあります。
- ③ 発がん性 HPV には 15 種類ほどのタイプがあり、中でも HPV16 型と 18 型は、日本人子宮頸がん患者の約 60% から見つかっており、20～30 歳代に限ると約 80% に達します。
- ④ HPV に感染する可能性が低い 10 歳代前半に接種することで、子宮頸がんをはじめとする HPV による病気の発症をより効果的に予防することができます。

1 HPV ワクチンの概要

- ① 子宮頸がん予防ワクチンには「サーバリックス®」と「ガーダシル®」の 2 種類があります。いずれか一方のワクチンで 3 回接種してください。
- ② HPV は、子宮頸がん及びその前がん病変をはじめ、外陰や膣に発症する病変（外陰上皮内腫瘍や膣上皮内腫瘍）、尖圭コンジローマなどを引き起こすウイルスです。

種類	サーバリックス®（2 価ワクチン）	ガーダシル®（4 価ワクチン）
対象年齢	小学 6 年生相当から高校 1 年生相当の女子 (標準的接種期間：中学 1 年生相当)	
方法	上腕の三角筋に筋肉注射	上腕三角筋又は大腿四頭筋に筋肉注射
接種間隔	1 回目の接種から 1 か月後に 2 回目 1 回目の接種から 6 か月後に 3 回目	1 回目の接種から 2 か月後に 2 回目 1 回目の接種から 6 か月後に 3 回目
効果	臨床試験により、15～25 歳の女性に対する HPV 16、18 型の感染や、子宮頸がんの前がん病変の発症を予防する効果が確認されています。上記以外の型の HPV の感染及びこれらによる病変発症の予防は期待できません。	臨床試験により、16～45 歳の女性に対する HPV 16、18 型の感染や、子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が確認されています。HPV 6、11 型の感染に起因する尖圭コンジローマ（性器周辺にできるイボ）等を予防する効果が確認されています。上記以外の型の HPV の感染及びこれらによる病変発症の予防は期待できません。
予防効果持続期間	現時点では、成人女性で最長 9.4 年（平均 8.9 年）は予防効果が続くことが確認されています（海外臨床試験成績）。現在も予防効果の持続に関する経過観察が続けられています。	現時点では、成人女性で最長 8.4 年（平均 6.7 年）は予防効果が続くことが確認されています（海外臨床試験成績）。現在も予防効果の持続に関する経過観察が続けられています。
製造販売元	・グラクソ・スミスクライン（株） (ホームページアドレス： http://allwomen.jp/index.html)	・MSD 株 (ホームページアドレス： http://www.shikyukeigan-yobo.jp/)
注意	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに発がん性 HPV に感染している人に対して、ウイルスを排除したり、すでに発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。 ・3 回接種しないと十分な予防効果は得られません。また、途中からワクチンの種類を変えることはできませんので、3 回ともいずれか一方のワクチンで接種してください。 ・3 回接種の途中で妊娠した場合には、接種は継続できません。その後の接種については医師にご相談ください。 	

2 次の方は接種を受けないでください

- ① 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃ を超える場合）。
- ② 重い急性疾患にかかっている方。
- ③ ワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって、過敏症（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）を起こしたことがある方。
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

3 次の方は接種前に医師にご相談ください

- ① 血小板減少症や凝固障がいがある方。
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障がいなどの基礎疾患のある方。

- ③過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方。
- ④過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方。
- ⑤過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは先天性免疫不全症と診断された親近者がいる方。
- ⑥現在、妊娠している、または妊娠している可能性（生理が遅れているなど）のある方。
- ⑦現在、授乳中の方。z
- ⑧別の種類のHPVワクチン接種を受けたことがある方。

4 副反応について

	サーバリックス®	ガーダシル®
頻度 10%以上	かゆみ、注射部分の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状（吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など）、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労	注射部位の痛み・赤み・腫れ
頻度 1～10% 未満	発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道感染	発熱、注射部位のかゆみ・出血・不快感、頭痛
頻度 1%未満	注射部分のピリピリ感／ムズムズ感、全身脱力	注射部位のしこり、手足の痛み、筋肉が硬くなる、下痢、腹痛、白血球数増加
頻度不明	四肢痛、失神・血管迷走神経発作（息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど）、AST（GOT）、ALT（GPT）の上昇等、ぶどう膜炎、角膜炎、リンパ節症	無力症、（上まぶたの下垂、物が重なって見えるなど）、寒気、疲れ、だるさ、血腫、気を失う、体がふらつくめまい、関節の痛み、筋肉痛、おう吐、悪心、リンパ節の腫れ・痛み、皮膚局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ
右のような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。	<p>重い副反応として、まれに、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ショック、アナフィラキシー（血管浮腫・じんましん・呼吸困難など） 2) 急性散在性脳脊髄炎（けいれん、運動障がい、意識障がいなど） 3) ギラン・バレー症候群（足から体の中心へ向かうまひなど） <p>があらわれることがあります。</p>	<p>重い副反応として、まれに、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 過敏症反応（アナフィラキシー反応やアナフィラキシー様反応〈呼吸困難、目や唇の周りの腫れなど〉、気管支痙攣〈発作的な息切れ〉、じんましんなど） 2) ギラン・バレー症候群（足から体の中心へ向かうまひなど） 3) 血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加など） 4) 急性散在性脳脊髄炎（けいれん、運動障がい、意識障がいなど） <p>があらわれることがあります。</p>


5 予防接種健康被害救済制度

万が一、子宮頸がん予防接種による重篤な健康被害が発生し、被害者からの健康被害救済について、厚生労働省が因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当、年金等の支給を受けることができます。

6 接種後の注意

- ①接種後は強く揉まず、軽く押さえる程度にとどめてください。
- ②接種後に、注射による恐怖、痛みなどが原因で、気を失うことがあります。気を失って転倒してしまうことをさけるため接種後すぐに帰宅せず、30分程度は接種した医療機関で座って安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしておいてください。
- ③接種した後に注射した部位が腫れたり、痛むことがあります。これは、体内に備わっている抵抗力が注射した成分を異物として認識するためにおこります。通常は数日間程度で治ります。
- ④接種後は、接種部位を清潔に保ってください。
- ⑤接種翌日までは、過度な運動は控えてください。
- ⑥接種した日の入浴は問題ありません。
- ⑦接種後1週間は症状に注意し、気になる症状があるときは医師にご相談ください。
- ⑧予防接種によってすべての発がん性HPVによる病変を防げるわけではありません。早期発見するために「子宮頸がん検診」の受診がとて重要です。宇都宮市では、20歳以上の女性（市民）であれば、誰でも受診が可能です（10代の公的な検診制度はありません）。20歳を過ぎたら、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

◎ 予防接種に関するお問い合わせは・・・



宇都宮市保健所 保健予防課
028(626)1114

予防接種を受ける前に
本説明書を必ず読んでください。